

前にも述べた通り個體數の割に種類は非常に少なく、特に巻貝は稀有である。ボンセイヨウヘット夏路の化石動物群は全く同じで、*Pododesmus* (*Monia*) *macrochisma* (*Deshayesi*), *Chlamys erythrocomata* (*Dall*), *Chlamys fareri akazara* Kuroda が非常に多く *Chlamys swiftii* (*Bernardi*) も少ない。貝化石の種類は少ないが、現生種は北海道、千島、樺太附近

に生存するもので夏路貝層の堆積當時の水溫も略現在の此の附近のものに近似して居つたことが推定出来る。摺筆に當り種々御指導下さつた中村、横山、黒田の諸先生並に入雲に於て採集の際諸般の便宜と援助を惜まれなかつた北海道工業試験所の矢島澄策學士、北海道帝國大學の竹田秀藏學士及び徳川農場の方々に厚く感謝の意を表する。

街村についての研究

櫻井 靜

目次

- 一、村落の形態的分類と街村の意義
- 二、線狀聚落の諸形態
 - ①武藏野に於ける片側村・兩側村
 - ②主要街村についての調査
- 三、街道と聚落形態との關係

街村についての研究

四、街村化について

- ①都市化と街村化
 - ②街村の特性
- 五、結論

一、村落の形態的分類と街村の意義

村落の平面形態に關しては、萬國地理學會の

農村居住⁽¹⁾委員會報告に於いて見られる如き、地方聚落の集合及び散在の分布狀態を主として論ずるものがある。この方法は同委員會の問題集に就いて見れば判明する如く、單なる研究の一般的方法として、聚落形態の最も著しい二特性の起原と地理的分布を論じたのである。従つて Demangeon は農村居住の研究問題は聚落の集合と散在の原因を研究するにありとなし、ヨーロッパに於ける農村居住の國際地圖は凝集・散在・混合の三種の區分によつて表示すべきであることを注意せられてゐる。Lefevre はベルギーの研究に於いて散在・凝集・集中の三種に分ち、Sydney はシトロップシャーの聚落を谷聚落・丘陵聚落・森林聚落の三種に分ち、前二者は凝集となり、後者は散在であることを論じた。

草光繁氏⁽²⁾は臺地村落の形態を論ずるに際して、村落の平面形態の分類には二つの方向があるとなし、第一を前述の委員會報告に見る如き集合及び散在の問題の分布狀態を主とするもの

と、第二を家屋・宅地の配列狀態を重視するものとの區分をなした。第二の場合に於いては外部形態の圖形的性質が主であつて、質的な取扱ひをなす場合には後者を出發點とすべきであると言はれてゐる。聚落の集合及び散在の問題は聚落地理の主要問題をなすべき性質のものであらうが、聚落形態の研究をなす場合には、草光氏の第二の場合による點狀・塊狀・線狀等の區分に従ふべきであらうと思はれる。

武藏野臺地に於ける村落について概括的記述をなした際、窪地村落・溪谷の村落・根岸村落・根通村落・片側村・兩側村・原の開拓村落・散村（散在村落）街村等の區分をなしてその特色を論じたのであるが、その大部のものは平面形態の有する特色と、更にその機構要素から適當と思はれる語を使用したのであつた。武藏野臺地の如き比較的平坦な廣い臺地に於いて、こゝに發達した聚落は臺地に特有の形態を有するものがあるに相違ない。而してその特有の形態は特有

の内容を有してゐるものである。かゝる場合に於いて、聚落の詳細な研究に依つて命名された Terminology の不足を痛感するのである。

今、街村 Strassendorf について見る時、その語義の内容は未だ一定してゐないのである。⁽⁵⁾松尾俊郎氏は普通の場合一條の道路の兩側に家屋が接續してゐる聚落形式であるとなし、嚴密な定義に準據したものではなくて大ざつばなものであると言はれてゐる。⁽⁶⁾佐藤教授は街村の地理的分布を論ずるに際して、所謂『主要街村』の語を使用された。⁽³⁾草光氏に依れば、街村とは街道に沿うた村落の意であるが、すべての道路に沿つた細長い村落の名稱となつてゐるから、街村の語は不適當であるとなし線狀村落の語を使用してゐる。

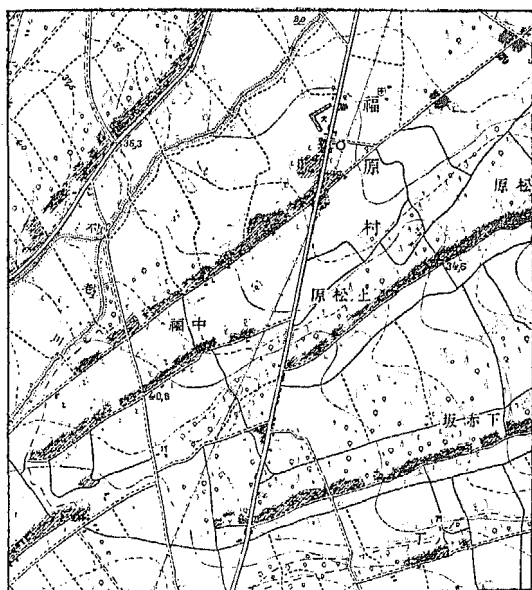
前述した武藏野の村落の調査については、街村と稱するものは主要街道に直面して生じた――商業的色彩の濃厚な密集の線狀村落の稱呼となしたいことを述べた。その理由は、線狀村落

と稱し得るものの中には所謂主要街村の如きものと、武藏野臺地に見られる線狀の開拓村落の如き著るしく異つたものがあり、内容的に異つたものを多く知つたからである。この意味から言ふならば、地圖のみによる平面形態上の線狀聚落の決定調査は可能であつても、形態的調査のみによつて街村を論議することは困難があることになる。⁽⁷⁾能登志雄氏は「武藏野の街村に關する研究」に於いて廣義の街村の調査（草光氏の線狀村落）を述べて、街村とは主要街道に沿うて、此れに依存して發生した線狀の聚落で、各家屋は密集し、しかも皆道路に面して此れに接して存在して居るものであるといふ定義を與へてゐる。

この場合、街村の定義は大體に於いて類似の結論を得たものであるが、能登志雄氏の調査も武藏野の調査に依るものであるから、他の街村の數例を附加して街村の特性を更に吟味したいと思ふ。道路に沿つてゐる概して一本筋の細

第一圖 武藏野の開拓村・片側村

地形と日當りに關係して北東・南西に延長してゐる線狀村落の一側である。



長い聚落は、之を總べて街村と稱することは少くとも内容的に無意味であつて、街村を線狀聚落と同義に使用することは妥當ではないのであ

る。この點に關しては聚落地理研究諸先輩の御指教を切に望む次第である。

二、線狀聚落の諸形態

I 武藏野に於ける片側村・兩側村

聚落が道路の片側にのみ發達してゐて、他の一方には之を見ない場合がある。海岸地方の漁村がかかる形態を有してゐるものがあるが、主として日當りと海岸の地形に依つてゐるものが多い。武藏野臺地に於いては平坦面中にかゝる特色を見るのであつて、開拓による線狀村落をなしてゐる。第一圖に示した村落は、道路の北側にのみ人家が並列してゐるものであつて南側には之を缺いてゐる。同圖は武藏野臺地の北部にある福原村附近の地圖であつて、片側村をなしてゐる特色については已に記述したことである。地形圖を詳細に注意すれば明瞭である如く、平坦面中にも地形上の變化があつて前多摩川の侵蝕谷が存在してゐるのである。その方向に一致するものが村落の方向で、北東——南西を示

してゐる道路は地形に依ることが大である。この場合道路についての問題であるが、この道路は單にその村落に居住する者に取つてのみ大きな價值があるもので、村落の發生は道路の開通と時を同じうして成立した。村落の職業は全く農業者で、家屋と道路との間には廣い庭を有してゐる。

この種の線狀開拓村落は、開拓當時の計畫がその平面形態を決定したものであつて、道路は線狀に區劃した開拓の形式を示すものに過ぎない。農業的職業を主とするから、人家は道路に直面してゐないこと、疏に並んでゐることがその特色である。道路の方向は地形に影響をもつことを注意したのであるが、之は決して第一義的のものではなく、日常りを害する方向でないことに利用された理由が存してゐる。この特色を有する村落を片側村(One Side Village)と稱したのであるが、之に對して片側街村(Einseitige Strassendorf)と呼ぶことは當を得ないと思ふ。

街村の特色を有するものゝ中で、その片側聚落の場合にのみ言ひ得るものと思はれる。

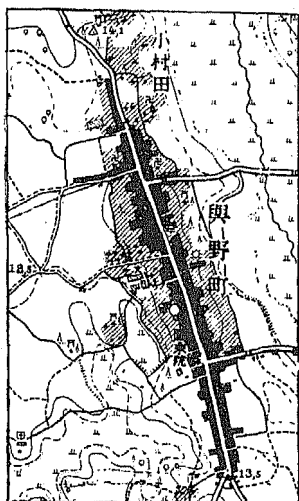
道路の兩側に人家が集合した細長い形態は、街村の普通に見る平面形態であつて、次の如き村落もこの街村に屬するかを決定したい。武藏野臺地に於いては各地に見られる開拓村落の形態であるが、所澤町北東部の三富新田の場合について見たい。此所は時の川越領主柳澤吉保の開拓によるもので、現在埼玉縣史蹟として指定されてゐる。その當時の大規模な開拓に屬する地割は、現在も明らかに指示し得るのであつて、上富は元祿七年、續いて中富が開かれ、下富片側は元祿九年の開拓である。一戸當り五町の宅地・畑・山林を區劃したもので、元祿九年には二四一戸の移住民を招來することに成功した。三富新田の場合に於いて、中央を通つてゐる六間幅の道路は遠距離を結ぶ如き性質のものではなく、開拓の當初に於ける計畫の基本通路をなしたものである。短冊形の耕地はこの道路に

直角に存在し、道路に面して人家と森とがある。前述した片側村の有する諸特色が、道路の兩側に存在してゐる。一―二軒の商店が道路に直面して建てられ、森の多い聚落景の中に不調和に存してゐる。之に對しては特に注意すべきであつて、商店の數の増加は聚落景を改變するのである。然しながら、道路の交通上から見た價值を一考すれば知ることが出来る様に、將來も現在の特長を失ふものとも思はれない。かゝる村落に對して兩側村 (Both Sides Village) の名稱を附したもので、兩側街村 (Zweiseitige Strassendorf) と呼ぶべきではなかつたと思ふのである。

II 主要街村についての調査

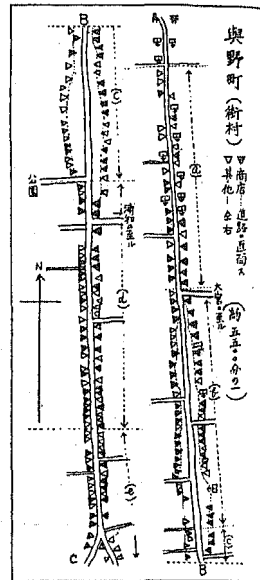
前記のものは、街村と稱し得ない特殊の開拓村落の二例を示したものである。従つて次に記載しようと思ふ所の、一般に街村と認められてゐる聚落と比較する時、如何なる相違があるか、また街村と稱すべき聚落の形態的・内容的機構要素を検討したいのである。

第二圖 街村の一例 (與野町)



今その一例として、埼玉縣の與野町について考察しようと思ふ。第二圖に見る如く狹長な聚落であつて、道路に沿つて全長一・四軒の長さを有してゐる。第三圖に依つてこの聚落の特長を考察するに、商業はその殆んど大部を占め、家屋は道路に直面して建てられてゐる。然しながら中央の主要地域は、家屋が道路に直面することなく、道路の西側では一・一m・東側では九mを最高とした空間が存してゐる。道幅を加算すれば約三〇mとなるので、この地域は商店も少

第三圖 街村に於ける人家分布の一例



なく活動的でない。こゝは過去の市場の中心をなした空間であつて、與野町發達の核心となつたものであるが、現在の商業から見れば不便も甚だしい。従つて新しい店舗中には道路に接近せしめて、家を建てゝゐるものも見られる。

街村としての與野町の特徴は、(イ)古くから地方經濟の中心となり市場町として發達したこと、(ロ)市場町として街村の形態を形成したものであり、それが一層發達を遂げた。(ハ)街村としての特色は商業にあることを認め得るのであつて、家屋は道路に直面して密接してゐる

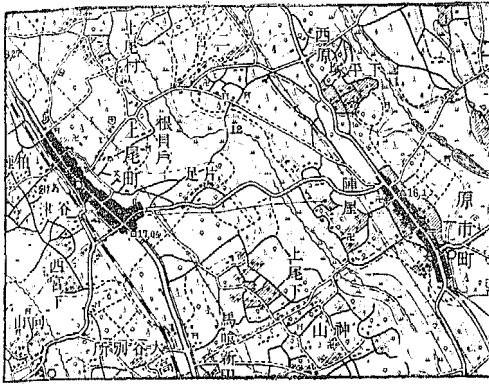
こと等である。

相模野にある原町田は與野町と同様に市場町として發達した。(8)田中助教の調査によつて知られてゐるが、火災前の原町田には矢張り市場の空間が存してゐた。幾條かの道路が、そのよい位置と地形とによつて集合し、市場町として街村を形成した。この二つの例によつて知ることが出来ることは決して道路の交通によつてのみ街村は發達し得るものではなく、地方經濟の中心地として狹長形態をなすに至つたことである。

武藏野臺地の北部にある扇町屋(豐岡町の南半部)は、臺地端の位置を占めた街村をなしてゐる。聚落の南部に於いて青梅街道と八王子街道が結合し、聚落の主要部をなす所は道幅が廣い。人家は殆んど全部道路に直面してゐて商店が多い。現在は旅館の如きは甚だ少ないが、徳川時代には宿場として相當重要であつた。道幅の廣いことは市場町の名残であるが、與野町及び

村 街 圖 第 四

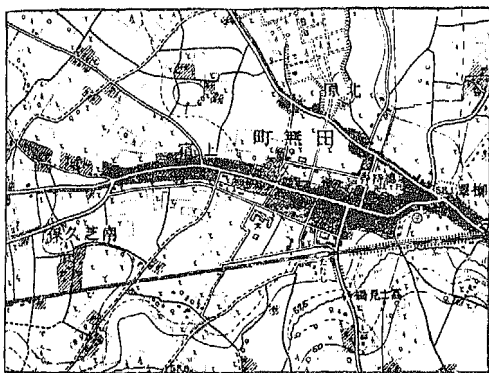
(宿場町の上尾と經濟の一中心地をなした
る發達した市原町)



原町田の如く明らかではない。宿場町として街
村の形態を有するに至つたものは非常に多く、
東海道・中山道其の他の街道筋に見られるので
ある。街村の形態を有するものゝ中で大きい聚
落の多數は、宿場町として著るしい發達を遂げ
た。高崎市の南東にある倉賀野町・埼玉縣の新
町・本庄町等は中山道筋の街村であつて、宿場

例 の 一 街 村 圖 第 五

(開拓村が街村となつたもの・田無町)

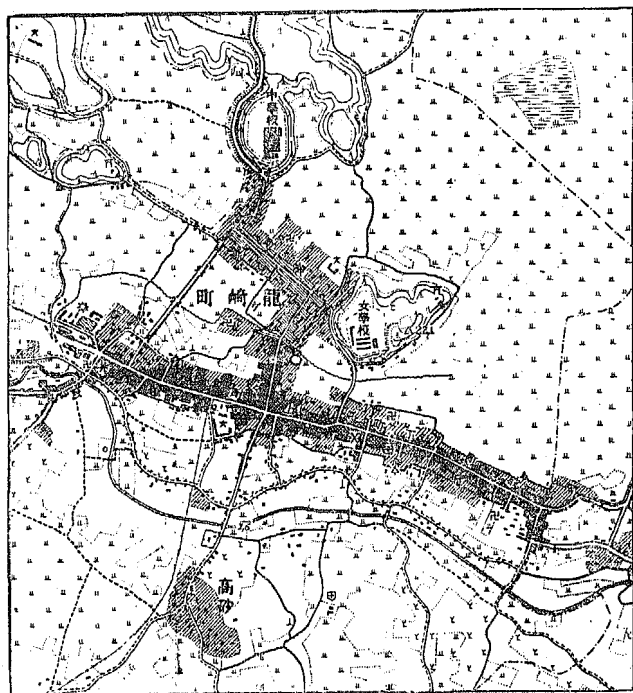


の性質と共に小經濟の中心を具備したものであ
る。大小の聚落が略々等距離的發達をなしてゐ
ることは興味ある問題である。第四圖の上尾町
は中山道の街村で、主要街道に發達した例であ
るが、同圖の原市町は小街道に沿つた田舎町と
も言ふべき街村である。

青梅街道に發達した田無町は、武藏野臺地の

第 六 圖 丁字型街村（龍ヶ崎町）

街村についての研究



一開拓聚落で、その裏通には川水路が北側にも南側にも通じてゐる。商店の数は割合少なく町の東部に集合してゐるが、街村の特性は失はれ

てゐない。人家は道路に直面するものがその大部を占め、密集的に存在してゐるのである。この聚落によつて見れば、街村と言ひ得るその特性は聚落の立體的景觀に存することが知られる（第五圖）。

が知られる（第五圖）。

水戸街道に沿つて發達した松戸町・我孫子町・相馬町等は何れも街村と稱すべきものであつて、千葉・茨城の水田地方に發達したものである。相馬町は藤代と宮和田の二街村が連續して一街村をなしたもので、藤代は商業的色彩が強く見られるに反し、宮和田は農業生活者が多い。農業生活者の多い宮和田について見るに、家屋は次第に道路に面して建てられ、横向きのもので背面を道路に向けたものゝ数は次第に減少し、人家は次第に密に存在するに至つた。

龍ヶ崎町（第六圖）は茨城縣南部の

水田地方に發達した聚落で、東西方向を示すものが主要部であり、之に丁字形に聚落が結びついてゐる。街道に直面して人家が並列し、その大部は商業的職業を主とするといふ點について見るならば、前記の臺地に發達した諸聚落と同様である。聚落の核心は丁字形部（最近は十字路となつた）附近で、上町・下町と呼ばれる部分である。丁字形の西枝は新町・米町・水門の名があり、東枝の部分は砂町・戸張等の町名となり、その北枝は田町・根町・馴馬新田等に移つてゐる。人家は殆んど全部道路に直面し、密集的狀態を呈するものであり、商業的職業がその大部を占めてゐる。その狀態が劣つてゐるのは根町・馴馬新田等の北枝の部に當つてゐる。裏通りの如きものは極めて貧弱なる田圃道の程度であつて、何れの方面も水田に終つてゐる。町の南部には古い堤防があつて並木路となり、白壁の家屋の多い街村を圍んでゐる。この地方の中心地としての特性は著るしいものがある。

街村の主要なるものについて特性を見出さんとしたものであるが、その調査の聚落の數が割合に少ないこと、關東地方の一部のもののみであつたことは缺點であらうと思はれる。然しながら、本邦に於いては街村の分布が北日本に多いといふ結論によるならば、關東地方に於いて最も著るしい街村のもつ特性は、我が國の街村の一般性を見出すことに重要であるとも思考し得るのである。その特性の主なるものは次に記す如くである。

A 街村の平面形態は道路に沿つて狹長であることを特色としてゐる。裏通りの如きものは少いのを特色とし、存在する場合にも貧弱なものである。

B 街村の主要なるものは、何れも街道に直面して存在する。而して、その街道は何れも交通的價値の優れたものである。この二つの觀點によつて、街村の所謂主要なるもの（發達した街村）は、地圖上の研究によつて

決定し得るものである。

C 聚落を構成する各家屋は、街道に直面し且つ密集してゐることを特色とする。

D 街村は道路の交通によつてのみ發達したものではなく、地方經濟の中心地として發達を遂げたものである。市場町・宿場町等の

特色を具備するものが多い。

E 主要街村は、特に商業的職業を主とするものである。従つて街村の發達に伴つて見られる聚落景觀は、商業化を特色としてゐる。

(未完)

獨逸の工業地域——其の發展と構造 (六)

クリスペンドルフ著

安藤 鏗 一抄譯

【ライン・ロウ・ストファールンの工業地域】の續き

この工業地域がラインに對して持つ位置は特別な意義を持つてゐる。ルールとオーベルシュレジエンの工業地域を比較するならば、何故前者がその生産に於て後者を凌駕したかと云ふことは明かに理解されるであらう。即ちルールは

一年中航行が可能なラインの下流に位置し、地域の内部には能率的な運河がラインから分岐してゐるのに對し、オーベルシュレジエンは航行の保障が充分でなく且運河も現在では利用出来なくなつてゐる。即ち低

廉な水運はルールと反對にオーベルシュレジエ